

環境分野で働く方に特徴的なマインド・スキル・性格に関するフィールド調査

北海道大学大学院 環境科学院

環境起学専攻 統合コース

池田 貴裕

環境省「持続可能なアジアに向けた大学における環境人材育成ビジョン」(2008)では、環境人材として、「強い意欲」「専門性」「リーダーシップ」を持つ人材を求めているが、そこに示されている能力は具体性に欠ける。本研究では、環境分野およびその他の分野で働く36名に対するインタビュー、および、質的データ分析法(佐藤, 2008)により、環境分野で働くために必要となるマインド、スキル、性格、そして、それらが育まれた原因や相互関係を明らかにした。

環境分野で働く方の多くは、「他者の幸せを求めるマインド」を抱いている。他者とは、家族から、地球・生命に至るまで、さまざまに見えるが、多くの方が広い範囲を見ている。特徴的なのは、そのマインドを抱く方の視点が、未来に向いていることである。そのマインドを得るキッカケとして、自然体験、ライフイベント(出産、病気)等の原体験や、仕事での経験の積み重ねがある。また、それらの複数が要因になり、マインドは生まれ、時と場合により、いずれかの要因が大きくマインドに影響するのだと考えられる。

環境分野で働く方に特徴的なスキル・性格は、①ネットワークを構築する力、②新しい価値を生み出す力、③粘り強さ、である。①は、環境問題が広い分野を巻き込んだ問題になり、一つの専門性だけで仕事を前に進めることが難しいため必要となり、具体的には、コミュニケーション力、柔軟性などに細分化される。②は、環境問題に関心が薄い市民の行動を変えるため、そして、基盤が安定しない環境分野の仕事が軌道に乗せるために必要となり、具体的には、マーケティング、情報を繋げて価値を創造することなどに細分化される。③は、多くの方が、現在の仕事に対して、やりたい、好き、という気持ちを抱いており、その気持ちが粘り強さを生み出している。また、組織内外では、専門性と役割分担が重要となり、役割分担をする過程で自分の役割を認識することなどが必要である。そして、マインドとスキルの関係については、マインドとスキルはどちらも重要であることがわかる。また、マインドとスキルは、互いに影響を及ぼし合い、育まれていくのだと考えられる。

本研究は、環境人材モデルでは漠然としていた「強い意欲」が、「他者の幸せを求めるマインド」であり、その視点が未来に向いていることを明らかにした。そして、マインドを育む、4つの原体験などの要因を示した。また、環境人材モデルの「リーダーシップ」の中にある素養を、「ネットワークを構築する力」、「新しい価値を生み出す力」と言い換え、さらにもう一段掘り下げ、具体的なスキル・性格を明らかにし、それらの相互関係も示した。また、本研究結果より、定量的アンケートを実施する事が可能になった。今後、本研究結果を足がかりに、環境人材の育成法についても検討していきたい。